



柳沢峠から鶴峠まで

北野 忠彦

多摩川分水界踏査の一環として、秋たけなわの大菩薩を歩いた。

2010年11月6日(快晴)

9:40、塩山からタクシーで柳沢峠に向かう。裂石から先、411号はすっかり新しくなり、空中の大回廊の様で柳沢峠に到る。頭に少し雪をかぶった富士山が優美な姿を見せる。富士川水系と多摩川水系を分ける柳沢峠10:25発、50mほど歩いたところで東京都水道局の多摩川水域を示す案内板があり、それに従い登山道を外れて膝ぐらいの高さの笹藪に入る。あまり顕著ではない尾根部分を進むと、水道局の用地境界標界と境界目標杭が、分水界と目される所に出てきたのでそれをたどって歩く。所々笹藪が深くなると杭を見失うこともあるが、なんなく1664mピークをすぎブドウ沢出た。ここから再び藪に入るが、1706mを越えた先、下りに



かかった地点で道を誤り、GPSで位置を確認して分水界に戻り、天庭峠に出て(12:45)昼食をとる。寺尾峠から先は分水界から外れて登山道をたどる。丸川峠の先からは道は地形図では分水界をたどっているが、実際には多摩川側のかなり下を通っていた。大菩薩嶺は15時を過ぎていたので、雷岩から先の分水界歩きは割愛して、唐松尾根経由で

今日の泊まり福ちゃん荘に下る(16:35)。数年ぶりに泊まった福ちゃん荘は、中がすっかりきれいになっていた。

11月7日(晴れ)

昨夜は星がきれいだったが、今朝は雲が多い。

6:05 出発。富士見平で一瞬赤紫色に輝く赤富士に出会い一同感激。大菩薩峠6:55着。介山荘は建て直されていた。熊沢山は忠実に岩のある稜線をたどり、石丸峠7:40着。峠から南に下がる小金沢連嶺を境に右手は富士川水系から相模川水系に変わる。ここからは春にはツツジの花が美しい、長い牛ノ寝通りに入る。ツツジの紅葉はほぼ終わっていたが、ところどころカエデが見ごろとなっていた。道はほぼ忠実に分水界を通っているが、時々境界杭が頭の上に離れる。玉蝶山(1730m)は道から外れ、山名標が林の中にあった。榎ノ尾山(1429.4m)ははっきりしたピークがない平らな山頂だった。三角点はほぼ逆向きだった。牛ノ寝に気づかないままに樹林帯を過ぎるとまた地形図上の道から外れて狩場山に達した。山頂からは一瞬東に下りかかり、杭を見つけて下りなおす。大ダワに出ると大マテイ山への道が二分しており、左の道をたどると1409.2mのピークを左からまきこんで頂上に達した。(ここは、右の道が正解のようだった。)このあとはほぼ道なりに、鶴根山を経て松姫峠12:50着。

奈良倉山は松姫峠からの林道歩きの後、分水界とはほぼ逆向きの2等点が立っていた。分水界は山頂から北北東に向き、杭も立っていたが、100mほど下ると傾斜がきつくなり、明瞭な稜線が認められない。バスの時間もせまり、ルートファインディングで時間と取るわけにもいかないので、登山道を下ることにして山頂に戻った。下り始めはあまりはっきりしない道を東側からまきこみしばらく下ると目の前にすっかり色づいた大きな三頭山が現れた。ここからやや急な、ほぼ分水界通りの道を下り、バスの時間(15:35)に余裕を持って鶴峠に着いた(15:00)

参加者：今井、川口、高田、高橋、鶴田(泰)、北野

連載 「廃(すたれ)の系譜」「廃道」

僅かな痕跡を頼りに現在の地図に載っていない道を歩く楽しみ。過去の地図と見比べながら、想像力を駆使して歩く魅力とは何だろうか。登山道に限らず田んぼの畦道や車道も含めて、道を作るために費やした多くの労力や資金。そこに込められた人々の思い、陰で活躍した人の姿、どんなに些細な道でもそれを必要としたから存在したのだ。その役割を終えた道には、現在を境として未来への指針が込められていることを感じられないだろうか。そんな風化し、存在すらかき消されてしまった道の中にも僅かな手がかりを見つけた時、そこに人の姿があったことを感じずにはいられない。



分水嶺踏査でAGCが担当した区間に大菩薩峠の存在があった。平野氏所蔵の古い地図(明治9年)の存在がきっかけだった。そこに至る経過はAGCレポートvol-7に記録されているので参考にしてほしいが、その後再び踏査しようとする声も挙がっていて、山行のテーマとして気になっている場所のひとつだ。

一般に廃道といっても、種々の形態があり、道路管理者や所轄の警察署によって「通行止」となっているところは道路法違反や不法侵入など問われるところもあり必ずしも自由に歩けるところではない。仮に事故などにあっても、管理されていない道においては全て自己責任となることを肝に銘じて挑むことが必須だ。また地形図に破線で示されている1m未満の道は登山道である場合が多いが、地図に示されているだけで実際には存在しない場合がたくさんあることは分水嶺踏査の時に数多く経験したものだ。そこがかつて重要な存在で、かなり活躍した道であっても痕跡すらないケースはたくさん存在する。前回の「廃線」と同様に利用者の減少や維持する労力・経費の破綻、新道の開通などの理由が挙げられるが、一方で復活させようとする動きも見逃せない。それは過去を懐かしむより未来を見つめる心境の方が勝るからではないだろうか。そんな廃道の幾つかをこれからも山歩きテーマとして取り組んでいきたいと思っている。廃道に興味のある方はこちらを→「日本の廃道」 <http://www.the-orj.org/>

注)「廃の系譜」は廃れたものをこよなく愛でるコーナーです。廃のつく思い出のある方は是非投稿ください。(廃屋 廃墟 廃坑 廃校 廃山 廃図 廃村 廃藩 産廃 山廃 などなど) (近藤善則)

紹介「地図の科学」山岡光治著

十年一昔ということであれば、もう「ふたむかし」以上前のこととなるが、自然科学系の新書といえば、講談社のブルーバックスであり、とにかくいろんな分野の本を買って読んでは、背表紙の分野ごとの三角形の色をきれいに並べつつ、満足していたものである。ブルーバックスで「地図の科学」といえば、国語の教科書にも引用される重鎮・堀淳一先生によるものが思い出されるが、今思えば少々緊張してしまう「よい地図・わるい地図」という副題のついた同書は現在、残念ながら品切れであるとのことである。

最近の書店では、ソフトバンク・クリエイティブのサイエンス・アイ新書のカラフルな表紙たちが、老舗のブルーバックスを横に従えつつ、平積みされている。本年7月には同新書から真野栄一、遠藤弘之、石川剛の各氏による「みんなが知りたい地図の疑問50」が刊行されており、手に取られた読者も多いのではなからうか。そんな、いまをときめく同新書から、山岡光治氏による新刊として本書が刊行された。

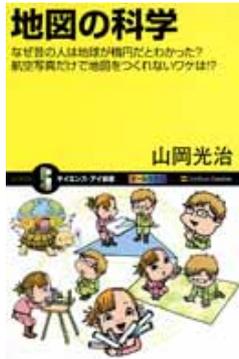
著者の山岡光治氏は、国土地理院を退官後、「オフィス地図豆」を開業されるなど、地図や測量に対する理解を深める活動を精力的になされており、これまでに、「地図に訊け！」(ちくま新書、2007年)、「地図を楽しもう」(岩波ジュニア新書、2008年)、「地図読み人になろう」(日貿出版社、2009年、表紙に著者本人が登場している)など、ご自身の経験を生かしつつ、親しみやすく著した教科書の数々をとりまとめられている。写真は、上が本書の帯無、下が本書の帯付である。帯には著者が現役のときの離島測量でのエピソードがイラスト化されている。帯の情報量が豊富なのも実に今風な感じがする。

本書は、副題が「衛星写真だけでは地図をつくれぬワケは?丸い地球を平面上に表すための技術とは?」と実に具体的に書かれており、地図の種類、用法、作成手順について、黎明期の歴史から現代の最新技術まで網羅的に、易しい導入から正確性を確保しつつ地図の科学が解説されている。今年度、国土地理院で運用を開始されたばかりの測量用航空機「くにかぜIII」号の外見と内部の写真をはじめとして、貴重な測量機器や測量成果の写真も多数掲載されている。本書は、驚くべきことに全頁カラーであり、キャラクターとして伊能測美さんと大杉誤郎くんを登場させた、にしかわたく氏が描くイラストも、本書の内容の理解をいっそう容易にしている。

先日、著者の山岡光治氏にお会いしたときには、新しい技術がどんどん増えてきているので、教科書はもう書かないつもりだとおっしゃっておられたが、次の教科書が執筆されることを期待せざるを得ない。個人的には、ブルーバックスからもおひとつ出版していただければなあとも思うのである。

著者の山岡光治氏の運営する「オフィス地図豆」のサイト:
<http://www.5a.biglobe.ne.jp/~kaempfer/index.html>

(田中大和)



図書・資料の紹介

「地図の科学」山岡光治著、ソフトバンク・クリエイティブ(サイエンス・アイ新書)240頁、952円(税別)
 なぜ昔の人は地球が楕円だとわかった? 航空写真だけで地図をつくれぬワケは!? (本号、左ページ参照)

最新版 2万5000分の1地図 地理空間情報時代の地図
 大竹一彦(著)340ページ 古今書院3,990円(税込)

空間情報ガイド 空中写真・衛星画像 村井俊治(監修)A4判84ページ 財団法人日本地図センター1,575円(税込)

日本の生物多様性 - 自然と人の共生 [大型本]
 環境省自然環境局生物多様性センター(監修)A4判:212ページ 平凡社3,675円(税込) 今年名古屋で開催されたCOP10で、各国の参加者に贈られたものと同じ内容のもの)

以上4点は12月18日例会後の懇親会にて紹介したものです(田中大和)

EVENT

植村 s マップコレクション 10月8日~平成23年1月20日 植村冒険館(入場無料)板橋区蓮根(03-3969-7421)
 植村直己が冒険で使用した地図コレクションや装備の展示

例会の議事録 11月定例会記録

2010年11月11日(木)19:00~20:10 於 JAC集會室
出席者: 10名(北野 平野 近藤 片野、半田(明) 半田(由) 森合、川口、長谷川、今井(順不同))

内容: (連絡出席の三好図書委員から)国土地理院より今西錦司氏の遺族から寄贈された地図を基に展示会を開催するため、JACへ協力要請があった。AGCが主となって協力してほしい。(北野)了解。下記参照 11月6,7日に多摩川分水界の柳沢峠 大菩薩嶺 石丸峠 松姫峠 鶴峠区間を7名で踏査した結果報告。(北野) AGC定例会開催日程が会場確保の都合で変更になる機会が多くなっている。検討の必要があるかもしれない。今のところ次月以降の予定は次の通り。開催日変更に注意願いたい。12月8日(水):通常通り、**1月13日(木):変更。**(北野)

終了後「鯨の家」で懇親会(10名) (記録:今井)

お知らせ

企画展協力依頼

例会にてAGC宛て協力要請のあった国土地理院企画の展示会についてのあらまはは次のとおり

テーマ:今西錦司一等三角点を巡る---1500山登頂の記録-

開催時期:平成23年3月8日(火)~5月8日(日) **開催場所:**

地図と測量の科学館(つくば市・国土地理院内) **展示概要:** 1500山の位置図、主な山の地図・写真展示、氏愛用の登山道具 ほか

次回の例会

日時 **2010年12月8日(水)** 18:30から
 於: 山岳会 ルーム
 テーマ: 山行報告 定例会開催日の件 ほか

==後記==

記念号の原稿募集 原稿の締切が過ぎましたが現在数点ほどしか集まっておりません。記念号の発行が危うい状況です。

AGCレポート vol-42 2010年12月1日発行
 発行: 日本山岳会・山岳地理クラブ(代表・北野忠彦)
 〒102-0081 東京都千代田区四番町5-4 日本山岳会 気付
 TEL 03-3261-4433 FAX 03-3261-4441
 編集担当: 近藤 E-mail: hikarikon@nifty.com